580年

ジェノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
５８０年

【Ｎコード】
Ｎ３８１８Ｃ

【作者名】
ジェノ

【あらすじ】
人間の都合で創られ、捨てられた獣達の物語。

０話：失敗人類（前書き）

・本作は、ファンタジー好きの男子中学生（０７現在）が考えたものであり、科学的に考えてかなり可笑しい面もある事と思うが、その辺にはあまり突っ込まないで欲しい。
・ついでにいうと、今回の話以降、流血描写等が含まれる場合があるため、注意すること。

0話：失敗人類

西暦２０５７年、旧約聖書解読により創世記の真実が判明。
その真実とは、
「神が全てを創造した」
「生物は自力で進化した」

という両理論の中間を行くものであり、
「全ての生物は霊的な創造主が創り、一定のタイミングで創造主が形質変化の選択肢を複数与え、それを個体毎に選択し、変化した」
というものであった。

これにより進化論者・創造論者の勢力は共に衰退していった。
これが「選択論（せんたくろん）」である。
それでも世は未だに「進化」と言う言葉を好んで使う。

西暦２５８７年、地球温暖化により北極・南極は完全に消滅した。
更に、陸地は現在の１／３になり、陸上・淡水域の生物の約８０％が完全に絶滅。→「２６世紀大絶滅」
残った生物は異常気象や環境汚染から逃れるために異常な進化を開始。→「生命改革」

人を喰うほど巨大な虫
陸を歩く蛸
背に翼を持った蛇
巨大なビルさえも押し倒す蒲公英（タンポポ）
恐竜のような亀
電化製品を操る烏

火を吐く蝿

そんな人類の敵が増えた中でも、やっぱり人間はどんどん増え続ける。
しかし幸い物を作る技と知恵を持っていた人間は、地上を捨てて空に新たなる大陸を作り出す。→「天空大陸（スカイ・ガイア）」「Ｈｅａｖｅｎ（ヘヴン）－２５８７」
日本とアメリカが主導権を握り、世界各国が空への進出を目指す。
→「天空進出」
瞬く間に天空大陸は世界中の空を埋め尽くした。
地上では植物達の殆どが死に絶えたが、極僅かな一部の種は驚異的な進化の元に、光合成を捨てた。
草食動物達は巨大化し、自分達を食い殺す植物に対抗するため、極端な大型化・小型化を図る。

一方天空大陸では、人間達の怠け心が社会問題になっていた。
此処でまたも日本とアメリカの技術者達が一丸となって、それを解決する。
人間より格下の存在とする為に、その容姿は獣と人の中間か、獣そのものの姿とされた。
人類の奴隷、ＣＢ（Ｃｌｏｃｋｗｏｒｋ　Ｂｅａｓｔ）の誕生である。
日本の「ウメダ」「アカカズ電気」のＣＢは高性能で、主に民間用に製造される。アカカズ電気の魚型は音楽ダウンロード機能もついており、水中活動には必要不可欠な存在。
アメリカの「メカファイターズ」のＣＢは軍用で、肉食獣や肉食爬虫類を模したものが多い。
中国の「黄金流星社」のＣＢは上記３社の真似。

此処で、更に進化する生物工学と機械工学。

最終的にＣＢを構成する物の中で、骨格・頭脳以外の全ては生物のものとなった。
生物の飯を喰い、生物の様に話す。→「完全進化（パーフェクト・エヴォリューション）」
しかし、成長・老化はせず、感覚器官と生殖器はあるが生殖能力も無い。
骨格はどんな衝撃にも耐えられる絶対的な金属で、頭脳は高性能の人工頭脳。
生殖器や感覚器官を持つのは、ＣＢ同士の愛の行為や、獣好きの欲求処理に用いられるため。

高度な感情を持つということは、自己表現力が豊かな反面、反発を起こすこともあるということ。
以前、役立たずはスクラップにしていたが、予算の問題や反対する集団、人道的問題等から地上に捨てて養うことにした。
捨てられたＣＢ達は、人間から解放されて自由だと考えている。
巨大なハロゲンライトで照らされるこの街の薄暗さは不快だし、馬鹿みたいに強い動植物共には何時喰われるか解らないが、人間に縛られるよりはマシだと思った。

この物語は、人間の実に身勝手な考えで造られ、捨てられた獣達の物語である。

0話：失敗人類（後書き）

結構現実的な話ではあると思いますよ。
まぁ、少しフューチャー・イズ・ワイルド入ってますが。

1話・3匹

―地上　１９：００―
夜の街を、３つの影が走る。

「畜生！警察（サツ）巻いたと思ったら連中かよ！」
「猫さぁぁん…やっぱ銀行強盗なんて止めといた方が良かったんじゃないですかね？」
「あー、今後悔してももう遅いだろ。ったく、明王ゴキブリって奴はデカイ癖に脚が早いなぁ…全く持って羨ましい限りだ」

一匹目は美しい雌猫のＣＢで、体型からしてどんな男性でも魅了できそうだ。
二頭目は逞しい雄犬のＣＢで、映画等で悪漢共を蹴散らすイメージがある。
三体目は巨体の雄竜のＣＢで、巨体ながら眼鏡を掛けたその顔つきは博識なイメージを醸し出す。

実はこの３匹、ほんの３０分前に銀行強盗を働き、警官から必死に逃げ回っていたのだ。
そして先程、猫の機転で何とか警察から逃れる事が出来たのだが、運悪く明王ゴキブリ―全長３．５ｍ、前足は蟷螂で尻はハサミムシという人喰い大ゴキブリに追いかけられていたのだ。

と、此処で雄竜が、
「よし、お前等。
俺に任せろ！」
「は？」

「へ？」
猫と犬は一瞬疑問に思ったが、次の瞬間答えは出た。

ふわっ…

3匹は浮いていた。
そう、雄竜は西洋竜を模した姿で、背中には巨大な翼が有った。
それを広げ、雄竜は他の2匹を抱えて天高く飛び上がった。
「で…でかした死恋！」
「竜さん、凄いです！」

「よし、これで少しは何とか…なってねぇぇぇぁああ！！！」

そう、どうなる筈も無かった。
読者諸君はゴキブリが一般的に知られる昆虫の中でどれに近いかご存知だろうか？
実は、バッタやカマキリに近いのである。
故にゴキブリには立派な羽がある。
この明王ゴキブリもそれは全く同じ。
つまり、明王ゴキブリは飛んでいた。

しかも、飛行速度は死恋と呼ばれた雄竜を遥かに上回るだろう。
「し…死恋！お前という奴はぁぁぁ！」
「竜さぁぁぁぁん！！！！」

「…あー…ヤバイ…どうしよう…」
悩む死恋、と、此処で彼の脳裏にある考えが浮かぶ。
「どうすんだよオイ！この状況どうすんだよ！」
「竜さん！私はゴキブリ(あんな奴)の餌になって死ぬのは絶対に嫌ですよ！」
「解ってらぁ！
いよし…お前等、ちょいと良いか？」

「何だ？」
「何です？」

「飛べ。心配すんな、計算上は其処の池に投げ込むだけだから」
そう、死恋はこの2匹を池に投げ込む気だったのだ。
2匹は騒ぐが、死恋は無視して2匹を投げた。

「しぃぃぃぃれぇぇぇぇんんん！覚えとけよぉぉぉぉぉぁぁぁぁ！」
「りゅうううさぁぁぁぁんんん！」
2匹は遠い池へ飛んでいった。
と、明王ゴキブリは直ぐ其処まで向かって来ていた。
「おっと、コイツがまだ居たんだった…」
と、死恋は背負ったクレイモア（大剣）を手に取り、向かってくる

明王ゴキブリに振り下ろす。

「SGYAAAAAAAAAAAAAAAAAAA！！！！！！！！！！」

ズビュッ……ベショッ！ベショッ！

明王ゴキブリは真っ二つに斬られて誰も居ない道路に落ちていった。

「ふぃ…これで何とかなったな…。

さ、あいつ等助けるか。」

と、その後池に落ちる直前に2匹は何とか助けられた。

が、死恋は怒られた。

「二度とやるな！」

「命が幾つ有っても足りませんよ！」

「…」

2匹の意見は正論なので、黙る死恋。

さて、此処で3匹について一応紹介するとしよう。

まず雌猫、血徒ことケット・アモデウス。

彼女は製造過程のミスにより、美しい雌の肉体に雄の人工知能を埋め込まれてしまった。

更にかなりの変態で、その行動は常に勝手でいい加減なことが多い。

オフィスに派遣されたが、派遣2週間後に職場の女（人間）に手を出して捨てられた。

次に雄犬、雨霧。

元々警察犬だったが、控えめで臆病な性格の為捨てられた。
ケットとは捨てられる前から交流が有ったようだ。

最後に雄竜、死恋ことシレン・ラセルティナ。
暴力団護衛用に創られたが、組が悪事を働こうとしている事に不安を抱き、自ら地上に降りた。
巨体で大食漢だが、眼鏡を掛けたその顔つきは何処か冷静さも見せており、雑学や科学系知識も豊富である。

この3匹、出会ってから3ヶ月していきなり所持金が底を尽き、ケットの提案で強制的に銀行強盗をする羽目になってしまった。

さて、金は手に入ったが行く当ての無い3匹。
そんな3匹に、未だ嘗て無いチャンスが訪れる。

「んー？何だあれ？」
血徒は何かを見つけた。

「どうしたんですか猫さん？」
「いやな、何かさ、店…っぽいのを見つけたんだよ。」
「店？」
「ああ、ほら、あそこ。」

血徒が指差す方向には、白いネオンサインの看板を掲げた飯店が有った。

『雌狐飯店』

それが店の名だった。
「入ってみるか？」
「入ります？」
「入ろうか。」
と、血徒を先頭に、雨霧、死恋の順番で店に近づいていく。

2話・雌狐飯店

3匹は飯店に向かった。
すると、突然飯店の扉が勢い良く開けられ、中から雌鼠が1匹逃げるように飛び出してきた。

「邪魔よ！退いて！」
更に店内から怒鳴り声が聞こえる。雌のものだ。

「待ちな、この食い逃げ！」

しかし、雌鼠は瞬く間に逃げていってしまった。

店内から1匹の雌狐が現れ、こう言った。
「はぁー…また逃げられた…。
ったく、只でさえ明王（みょうおう）ゴキブリや魍魎蛸（もうりょうだこ）がうじゃうじゃ居るってのに、月に何回も食い逃げされたんじゃやってらんないわ…」
どうやら彼女はこの店の店主らしい。

と、其処に血徒が、
「あのーすいません。
俺が食い逃げ鼠を捕まえましょうか？」
すると雌狐は、
「あら、助かるわぁ…」
更に雨霧も、
「私も、皿洗いでもしましょうか？」
「え？貴方まで？いやー有難う…」

最後には死恋も、
「…俺はこの店の見張りをやりましょうか？
この区画は治安が悪いしバケモノだらけだ。
こう見えて接近戦と空中戦は得意ですから」
「いやー！有難う。それが一番助かるわね…」

3匹の積極的な態度に、雌狐―ミカヅキは感動した。
その後、血徒は食い逃げ現行犯を捕まえに走り出し、
雨霧は皿洗いに専念し、
死恋は見張りとして屋根の上に立った。

この時、ミカヅキは思った。
“この3匹を雇ってみよう”と

数分後、無事に仕事を終えた血徒と雨霧、死恋の3匹は、ミカヅキに呼ばれて彼女の前に集まった。

「これから貴方達を、この店で雇うことにしたわ。無論住み込みでねw」

それを聞いて3匹はとても喜んだ。

「私はミカヅキ、この『雌狐飯店』の店主よ。
それじゃあ、貴方達に仕事をあげるわね。

まずは…そこの可愛い猫ちゃん」
と、血徒の方を向き、
「血徒です。」

「じゃあ、血徒。
貴方、料理は得意かしら？」
「え…そりゃあ、プログラムされてますから…一般的な家事はこなせますけど…？」
「じゃ、料理係ね」
次に雨霧の法を見て、
「次に、そこの犬のお兄ちゃん」
「雨霧と言います」
「雨霧君か…良い名前だね。
それじゃあ、貴方には皿洗いと掃除係ね」
最後に死恋に近寄り、
「貴方…大きいのねー。
身長いくつ？」
「２５６ｃｍですけど。

名前は死恋と言います」
「シレン？どういう字書くの？」
「死んだ恋で死恋です。

ところで仕事は…？」
数秒考えた後、
「…変わった名前ね…」
「よく言われます」
「決めた。仕事は店の見張りと用心棒、あと、空飛べるんだから買出しと強盗退治と店の修理もお願いね」

「はい」

「あと…貴方達の寝床だけど。

あのマンションを自由に使って良いわ。
あそこ、電気代も電話代も無料だから」
と、ミカヅキが指差したのはとてつもなく巨大な高級マンション。
３匹は驚いた。
が、上手い話だと思い納得した。
更に血徒と雨霧の手元に衣服のようなものが配られる。
「店の制服よ。着るも着ないも自由だけど、なるべく着てね。
死恋のは…合うサイズが無かったから注文しておくわ。
ささ、今日はもう遅いんだし、明日からバリバリ働いてもらうわよ。
開店は１０時頃ね。
それじゃ、お休み」
と、ミカヅキは店内に帰っていった。
その後、３匹もマンションに入って行った。

3話・これが日常（前書き）

スーパーノヴァ・兎様。
クリーチャー投稿誠に有り難う御座います。

3話・これが日常

店でのバイト生活は、至って楽だった。
血徒の料理の腕の良さには驚かされ、
雨霧はどんな仕事も丁寧にこなし、
死恋が見張りをしているおかげで客が怪物に襲われる心配も無い。

店を開ける。
客が来る。
料理を作り、食わせる。
客を満足させる。
会計。
客が出て行く。
閉店。

この工程を毎日繰り返し、閉店後は自由時間。
そんな生活。

客の目的も様々で、
飯を食いに来たり、
スタッフと話したり、
店主・ミカヅキを口説こうとしたり、
それを叱りに来たり、
そんな平穏な奴らがやって来る。
死恋が見張りを初めてから、小さな怪物やごろつきは飯店に近づかなくなった。
とはいえ、死恋が見張っていてもやはりトラブルは発生する。
この区画は治安が悪い。
飯店では週３回必ず食い逃げされ、月２回必ず強盗が来る。

以前はミカヅキ1匹で何とかしていたが、それももう限界だった。
だから彼女は3匹を雇ったのだ。
いや、それ以外にも、彼女の持つ「優しさ」や「愛情」や「母性」も有ったのかもしれないが…。

―11：21　飯店前―

死恋の休憩時間、彼は店内で昼食を取っていた。
メニューは美味そうな牛筋肉とレタスに白飯。死恋は天空大陸に居た頃から牛肉とレタスが大好物だった。
さて、彼が雨霧や血徒とテレビのアニメ番組を見ながら昼食を取っていた頃の話。
大したこと無い会話をしている最中、店の前で、

「ったたたたた、助けてくれぇぇ！お願いだぁぁああ！」
気弱な雄の泣き言が聞こえる。
どうやら外部で何か問題が起こったようだ。
早速割って入る3匹。

「どうしました？」
と、雨霧が被害者を保護する。
被害者は雄烏で、前進にアザや切り傷が大量にある。
「…借金の契約書に無いことまで、言いがかりを付けてきて…」
すると向こうから怒鳴り声が聞こえる。

「なんじゃとオイ！言い掛かり！？
儂らは期限過ぎとるから銭をはよ返せっちゅうとるだけやろ！」
どうやら金融業者の連中らしき犬共だ。
後から死恋が駆けつけて、雄烏に契約書を見せてもらう。

契約書の内容はシンプルに言えばこうだった。
『７／２２までに、貸した３０万円を全額返済。』
話を聞けば、今日はまだ７／１５なのにも関わらず、４５万返せと言ってくるのだそうだ。

死恋は聞いてみた。
「質問宜しいですか？

何故、契約書に書かれている額より１５万円も多い返済をお求めで？」
すると雄共の一匹が、
「社長が今朝から機嫌が悪くてのぉ！文句あるか！」

何とこいつら、単純な社長の不機嫌から命令されて不正を行っていたのだ。
これには死恋もキレた。
直後、

ツプシャアッ！

集団の１匹が、真っ二つに斬られていた。
鮮血が、辺り一面に広がった。

「って…テメェ！

おい、お前等、やっちまッ…」
リーダーらしき雄犬が全員を嗾けようとした、その時。
そいつの左胸は貫かれていた。長い針によって。
死恋はやっていない。

犯人は、後ろに居た。
リーダーの和犬の背中に止まっているそれは、巨大な蚊だった。

「うわぁああっ！大王藪蚊だぁぁ！」
雄犬の１匹が、驚きの余り転んでしまった。
この蚊―大王藪蚊は、ＣＢ達にとって非常に厄介で凶悪な生物なのだ。
全長５０ｃｍの蚊。というだけでも恐ろしい事この上ないが、彼らの恐ろしい点は、大きさではない。

その知性・嗅覚・飛行速度である。
犬並の知性を持ち、暗闇では嗅覚が視覚の代わりをするほど優れた嗅覚を持つ。
更に、弓矢や銃弾のように素早い速度で飛行し、１００ｍを僅か１／１００００００で飛行する。
ＮＨＫのスーパーハイスピードカメラも逃げ出す速度である。
飯店周辺には幅広い河川が多い。水のある場所には大抵生き物が集まってくる。
どんな汚水の中でも生活出来る大王藪蚊の幼虫、王子棒振が育つには絶好の場所だった。

「こいつぁヤバイな…」

群れている事を警戒した死恋は、雄烏を店内に避難させ、腰からＦＮＰ９０（軽機関銃）を抜いて構える。

ガガガガッ！

大王藪蚊は見事にバラバラになった。
どうやら珍しく単独だったらしい。幸運である。
と、その時。

ザパァ！

ドボァン！

雄犬達の背後にある河から何かが飛び出し、１匹が河の中に消えた。

「な、何だ？何ｇ…」
更にもう１匹雄犬が河の中に消える。
死恋が水面に目をやると、普段の綺麗な青い河の筈が、赤い何かが漂っている。
試しに１匹の雄犬に石を投げ付け、間接的に河に落としてみた。

ザボン！

直ぐに浮いてきた雄犬。
どうやら泳ぎが苦手なようで、必死に助けを求めておぼれている。
「ガボッ…た、、、助けてくれ！！　ゴボバッ…ガボッ……ガバボバッ…」
直ぐに仲間の犬達が助けに向かう。
「は…早くしてくれ……頼むブッ！」
次の瞬間、
「　　…！！！」
雄犬は河の中に消えた。
それと同時に犬達は河から遠ざかる。
と、その直後。

ブクボコボコココココッ…

水面に気泡が上がり、大波が立ち始める。
何かが来る…。死恋が思ったその時、

ドバァァァァァァァァァァンン！！

そいつは現れた。
頭だけで２ｍはあろうか、とにかくデカイ。
デカイ魚だ。
死恋はこいつに見覚えが有った。

『パンツァー・フィッシュ』　別名を《樹海雷魚》という大型肉食硬骨魚類だ。
過去数匹程見たことがあった。
元々淡水棲のカムルチーが、高温多湿な環境のために上陸した姿。
成魚の平均全長は１０ｍ。とはいえこいつの全長はそれ以上あるかもしれない。
胸鰭・尻鰭が足の様に発達しており、走行速度は時速５０ｋｍ。故に泳ぎは苦手。
浮き袋を発達させ、肺に進化させた。
硬質の鱗は銃弾も全く効かない強度を誇り、金属も切り裂く鋭い牙の並んだ強靱な顎の筋力
ＣＢを除く陸生動物の内で敵う者無しとされる、陸上最強の種の１つ。
ついでに連中の卵はとても美味い。

「普段は樹海で走り回ってる背徳魚類が一丁前に河泳いで来てんじゃねぇよ！」

格好良く決めたが、無論パンツァー・フィッシュは台詞に動じない。
寧ろ死恋を喰い殺そうとしている。
ドドドドドドド…

「うをっ！」

死恋は上空高く舞い上がり、何とかパンツァー・フィッシュの突進

を回避したが、彼が上空に居ることが解ると、口を開けて跳び上がった。
死恋は思い出した。
―そういえばこいつ、跳躍力も凄かったんだった…。
何とか避けた死恋だが、このままでは何時喰われるか解らないし、自分が喰えないと解れば店の客を襲うかもしれない。

つまり、この日、この時、この瞬間に始末しておく必要があった。

と、その時。
下から声がした。
「竜さーん！」
雨霧だ。
右手にスパス１２（散弾銃）を持っている。
「雨霧ィィィィ！そこ危ねぇから店入ってろー！」
しかし雨霧はそれに答えず、
「これッ…受け取って下さぁぁぁいッッ！僕のコレクションですーッ！」
と、犬型ＣＢ特有の豪腕でスパス１２を投げる。
竜型にはその半分にも及ばないが、人間からすれば驚異的な投擲力。
投げられた銃器は、直ぐさま死恋の手元に届いた。
丁寧にも弾丸は７発全て装填されている。

「有り難うな雨霧ィィィィ！後で弾丸以外全部返すからなぁぁぁッ！」

と、大声で返せば、雨霧は安心したように店内に避難した。
さて、よほどしつこい性格なのか、パンツァー・フィッシュ―樹海雷魚はまだ死恋の方へと大口を開けて飛びかかってくる。
１撃１撃を避けながら、死恋はチャンスを伺った。

そして、急接近した樹海雷魚の口の中目掛けて、死恋は弾丸を放った。

ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！
ガァン！ジャキィッ！

ドパシャァァァァァァァァァァァァァァァァァ！！
ドスッ…

弾丸は樹海雷魚の喉の位置でビー玉サイズの金属の球となって弾けた。
パンツァー・フィッシュの頭部は砕け散り、その骸は店の前に落ちた。
大喜びしながら血徒が店から走り出る。
今は丁度、年に三度あるパンツァー・フィッシュの産卵期なのだ。
骸に集る欧米蟻を払いのけながら、その腹を開く。
そう、このパンツァー・フィッシュは雌なのだ。
中から真珠色に輝く西瓜ほどの大きさの卵が出てきた。その数６０個。
しかも産卵の直前だったのか、胚は全く育っていなかった。
そうしてこの日から暫く、高級食材である樹海雷魚の卵を使った料理が雌狐飯店のメニューになったのであった。

4話・首領

「よし、漁れ！」
「やった！銃だ！拳銃を見つけたぞ！弾丸も全部入ってる！」
「おおおおお！手榴弾だ！手榴弾がこんなに！」

血で湿った地面。
ＣＢの死体で埋め尽くされた草村。
死体を漁るＣＢ達の殆どは、犬、狼、狐、狸等のイヌ科動物。雄も雌も数はほぼ等しいだろう。
屍肉を求め、様々な生物が集まってくる。
一日蠅（ワンデイズフライアメリカンアンツ）、欧米蟻に弾丸死出虫（バレルビートル）や鎧青虫（スクワーム）といった昆虫類。
怪奇蝦蟇（ゴーストトード）、火花山椒魚（サラマンダー）等の両生類。
飛行毒蛇（ニドヘグ）、第二牙王（セカンド・サルコスクヌヤーマンタート）、戦車亀（ヘッドリザード）、毒鱗法皇等の肉食爬虫類は己より小さな餌を狙って。
邪鳥（イヴィルクロウ）、腐食雀（ふしょくすずめ）というような鳥類。
それらを狙う、官僚鼠（アドバイザーマウス）や現代（いま）と変わらぬ家猫（イエネコ）等の哺乳類。
その他、１ｍを超える大きさの蛞蝓（スラッグ）や蚯蚓（ワーム）、全身白い魍魎蛸（スピリットオクトパス）等も集まってくる。
実に気味が悪い。

そんな、地獄に等しいこの場所で、乱闘により全滅したＣＢの死体を漁っているイヌ科動物ばかりで構成されている集団があった。
その名は―

『マッド・イル・ドッグス』

軍用に作られたイヌ科動物型ＣＢを中心とした戦闘集団である。
無論イヌ科でない動物の構成員も含まれるが、８：２の割合で圧倒的にイヌ科が多い。
ちょうど、１７世紀の海でいう海賊、同時期の山でいう山賊や盗賊等に似た集団かもしれないが、そういった連中とは違った大きな違いがある。

彼らは、普段は略奪や乱闘を繰り返しているが、それと同じだけの時間をボランティア活動に当てているのだ。
これは前首領から受け継がれているルールの１つで、大抵壊れた建物の修理や大型補食動物（バケモノ）の討伐に行くことが多い。

現首領・長月はそれが善だと考えているし、手下達もそれを認めている。

「十一班班長！ソノ虫ハ喰エッカラ籠ニ入レテオケ。
五班探索係、ヨクヤッタナ！偉イゾ。ソノ石ハ売ルトカナリ儲カル」

現在、ＭＩＤは三十分前まで戦場だった場所で食料及び物資確保活動を行っている。
今までの所、成果は次のようになっている。

火器除く武器　２９６
刀剣１５５　短剣・長柄各５３　鈍器２５
火器　３１０
拳銃１０８　ライフル７３　爆弾６２　ショットガン３８　機関銃２２　遠隔操作型自走砲台（スパイダーキャノン）及びその操作機械（コントローラー）各７

食料（加工食品のみ）　１０５０
スナック菓子５０４　甘味２１３　インスタント１５９　レトルト６０　冷凍３７　その他２３
日用雑貨（刃物・家電除く）　２０００以上
携帯式小型家電　５００以上
食用生物　６１９
哺乳類１０２　鳥類５０　爬虫類６２　両生類３１　魚類２１７
節足動物７６　軟体動物１７　環形動物６４

―２時間後

「ヨシ。大体コンナモンダロウ。
ＯＫ、御前等今日ハモウ解散ナ」
「有り難う御座いました！」
構成員達が一斉に帰っていく。
「…ット、後ハ食材ヲ飯店ニ届ケルダケダナ…」
と、嬉しそうな長月。

解説しておくとしよう。一応。
長月は雌狐飯店店主、ミカヅキに好意を抱いている。
それは恋心なんて大層なもんじゃなく、職場の美人で性格の良い先輩の異性を慕う若手（ルーキー）社員の感情と同じようなものだった。

―雌狐飯店前　長月視点―

「あら長月君。今日も採ってきてくれたの？何時も悪いわねぇ」
「イエイエ、当然デスヨ」
長月は普通に振る舞うが、心の中では凄く嬉しい。
何たって大好きなミカヅキに褒められたのだ。
それに彼女の笑顔はとても美しい。癒される。

だから大好きだった。

一通り食材を渡し終わってから、長月は静かにその場を後にした。

―マンション　７０４号室　死恋―

「～♪」

自室で電脳通信遊戯（オンラインゲーム）を楽しんでいるこいつは死恋。

「

ほ！

は！

撃て！

よっし！

うらぁ！

でいっ！

っっおぉぉし倒した～。

ザマ見たか狂戦士」

どうやら敵を倒したようである。

と、その時。

ピリリリリリリ…

ピリリリリリリ…

「あ、電話だ」

死恋の携帯電話に電話が掛かってきた。

どうやらミカヅキからららしい。

「はい、もしもし。店長？

え？長月が食材持ってきてくれたけど調理法分かんないのがあるから調べてくれって？

はい、解りました」

と、直ぐに携帯を切ってから店内に向かっていった。

こうして、雌狐飯店の1日は過ぎていく。

4話・首領（後書き）

ラスト、雨霧と血徒の日常も書くつもりでしたが、時間の都合上削除…

とりあえず新キャラ出ました。

長月を宜しく。

ケモラジオ・Aパート（前書き）

今回はラジオです。

ケモラジオ・Ａパート

―マンション５８０号室―

雨霧「大丈夫ですか？
はい、じゃあ行きます」

ＢＧＭ：「キカイジカケ」で「糞似非プロ殺し」

雨霧「はい。始まりました。我々打ち捨てられたＣＢによる読者のためのラジオ番組「ＢＥＡＳＴ　ＤＡＳＨ－５８０」のお時間です。この番組では、作品の中に登場する重要キャラクターや、作者が他のサイトで使っているキャラをゲストに呼んで、様々な話を聞いてしまえ！
というものです。

司会は僕、臆病軍用犬こと雨霧と」
血徒「ドスケベ鍋猫血徒！」
死恋「変人飛竜死恋でお送りしまーす」
３匹「どうぞ宜しく！」

雨霧「っと言うわけで、最初は読者の皆さんからのお葉書を紹介して行こうと思います。
まずは、ラジオネーム・お茶っ葉さんからのお葉書。

『雨霧君、血徒ちゃん、死恋さん今晩は』」

３匹「今晩は～」

雨霧「『前から疑問に思っていたのですが、地上は嘗て人間が使っていて、今では使われて居ないんですよね？
つまり治安もあまり良くないと思うんです。
なら何で警察や商店が立ち並んで居るんでしょうか？
それに機械や加工食品を作るためには工場が必要ですよね？
捨てたＣＢを思い遣る為とはいえ、人間如きが其処までするとは思えません。
それについて詳しく教えて下さい。』
という事なんですけど…
これに関しましては、とても素晴らしい質問だと思います。
それでは、まず「天空と地上」の基本知識について学んで下さい。
僕たちの街は、皆さんのイメージとは違いそんなに治安が悪いわけではありません。
確かに長月さん率いるマッド・イル・ドッグスの様な怖いＣＢ（ヒト）達も居ますし、危険な生き物が沢山居ます。
人間側からしても、捨てたＣＢを養う必要性も無いかと思われるでしょう。
でも、天空に旅立った人間達は地上にある忘れ物をしてしまったんです。

それは…竜さん、答えてあげて下さい」
血徒「あーあ、何言ってんだよ雨霧。
死恋の事だからまた長ったらしい話になるぞ」（だらけ）
雨霧「大丈夫ですよ猫さん。この番組ＯＡ３時間半ですから」（長っ！

死恋「よしきた。それじゃあ説明しよう。

忘れ物…

それは、石油・石炭等や鉄鉱石・ボーキサイト等の鉱物資源と清潔な水に良い土、そして塩分の事だ。
確かに、地上は狭くなりすぎていた。
天空に新たなるスペースを確保した事は大きな進歩であると言えよう。
しかし、連中は馬鹿なことに地上でしか手に入らない物を忘れていってしまった。

石油・石炭・鉄鉱石・ボーキサイト・銅・錫・金・銀等、地中で生成される鉱物等がまずそれだ。
更に、植物を養うのに必要な土と水。更に動物が生きるのに必要不可欠な塩分。
これは流石に天空まで持って行く事は出来ない。水は以前—俺が仕事を始めて1年になるまでは水素と酸素を反応させて自動的に作っていたらしいが、それにも限界が来たらしい。
何より問題は塩分、つまり塩だ。コレが無いと生物は生きていけないからな。
以前—俺が仕事を辞めて地上に降りてくる2年前までは地上から天空まで人類が昇って行くのに使っていた鉄塔の亜種と言える装置で天空まで掬い上げていたが、機械本体は地上に有ったから人間がメンテに行くとかなりの危険を伴う。

なら武装すれば？

そう思うかも知れないが、実は武装しただけで話は収まらなかった。
確かに、樹海雷魚（パンツァー・フィッシュ）や明王ゴキブリ（ミョーオー・ローチ）なんて連中には対処出来ていた。
それは良い。
だが、菌類の胞子や昆虫類の卵が装備に付着し、一度大問題になったことがあった。
これにも後に対策を取ったが…やっぱり問題は残っていた。

『シロメアリ』という蟻が居る。
こいつらは視力を捨て、方向探知を嗅覚・触覚にのみ頼った虫共だ。
奴等の顎は薄い銅板も食い破るほど強力で、無論衣類や人間の皮膚なんざ簡単に貫く。
しかも連中の牙には凶悪な麻痺毒があり、これにより対象の生物は痛覚を失う為、噛まれた事どころか上を歩かれていることさえ気づかない。
しかもこいつ等は地面に巣を掘らず、生きた動物の肉体を巣にしやがるから質が悪い。
人類連中はこの凶悪極まりない蟻の存在を知らなかった。

地上から天空大陸に戻った技術者や兵士共。
功績を称えられ、褒められている最中に、腹に穴があいて中から無数の巨大な赤い蟻が血のように吹き出す。
そして周囲に居る人間に無差別に襲いかかる…。

そんな惨劇が過去何度も起こってから、人類はその作業を地上に捨てたCBにやらせるようになった。
その代償として、CBを養う人工知能を地上に設置してやった。
それが工場や公機になりやがったのさ」

雨霧「お茶っ葉さん、解って頂けましたか？」
血徒「多分解ってねーと思うけどなー」
雨霧「ちょ、猫さん！そんな事言っちゃ駄目ですよ！」
血徒「ｚｚｚｚｚ…」（爆睡中
雨霧＆死恋「収録中に寝る　なッ！」
いで下さいよ！」

雨霧「っと、次の質問行ってみましょう。
ラジオネームドライアドさんからのお便り。
『皆さん今晩は。
作品を呼んでいて思ったんですが、地上は天空大陸の影響で日光や月光が届かないんですよね？
しかもその環境下であらゆる植物は滅び、生存した種の殆どは光合成を捨てた…。
天空大陸上には植物があるんでしょうけど、それだけで地球上の酸素を保つのは難しいと思います。
その辺について詳しく教えてください』

という事なんですが…」

死恋「植物についても、人間は対策を怠らなかった。
科学者共は地上にも再び森を作らなければ天空大陸も滅んでしまうと考え、ある対策を施す事を決意。
まず地上へ光が届くように、地上へ向けた蛍光装置を作った。
更に天空大陸に保存してあった原始的な植物の種子を撒布。陸地だけじゃない、海中まで至る所にな。
ついでに中学理科で習ったと思うが、オキシドールと二酸化マンガンを用いた酸素発生装置を世界各地に設置。
こうして何とか何を逃れたようだ」
雨霧「ドライアドさん、解って頂けましたか？」

雨霧「まだまだ質問は届いています。
ラジオネーム・甘納豆さんからの御便り。
『地上には雨が降らないはずなのに何故動植物や菌類が育つのか教えてくれ』
という事なんですが」

死恋「天空大陸の裏側には人工の巨大雨降らし装置が取り付けられている。
これを用いて地上に水を供給しているようだ。
故に地上で雨が降る時には空は晴れ同然に明るいぞ」

血徒「くぁ～…ネム…

～いうわけで、～一度ＣＭ入りま～～～～～す」

雨霧＆死恋「～多ッ！」

ケモラジオ・Aパート（後書き）

Bパートに続きます。

ケモラジオ・Bパート

ＣＭ明け

血「んなわけでＢパートです。
二匹(フタリ)共、張り切っていくぞ！」
雨「元気ですねー」
死「寝起きだからな」

血「っつーわけで次の質問！
ラジオネーム印セクターさんからの御便り！
えぇと何だって…、
『２６世紀の進化した生物に関する図鑑を作ってください。』

御免死恋、後任せるわ…。」

死「っしゃぁねぇなぁおい。

それでは只今より、本編・ラジオ内に登場した生物の解説をしていこうと思います。
なお、これらの図鑑は全て番組公式ＨＰに掲載されますので、そち

らもご覧ください。」

［注：此処から暫く死恋が語るが、読者諸君には判り易いよう、テンプレート形式で解説していこう。］

名前：　別名「」
分類：
祖先：
全長：
食性：
住処：
容姿詳細：
総合詳細：
生態：
備考：
後付：

名前：フライング・マナス　別名「砲弾怪魚」
分類：ダツ目トビウオ科
祖先：トビウオ
全長：約４ｍ
食性：肉食でとても獰猛
住処：水深２００ｍほどの浅瀬付近に生息
容姿詳細：体中銀色のとても硬いウロコに覆われており、巨大な胸ビレを広げて滑空する。
総合詳細：滑空時の高さは最大３０ｍ、飛距離は軽く３ｋｍを越える。エラ呼吸だが、３分ほどなら陸地で活動することも可能。
生態：年に３度交尾をし、雌が２００個の卵を産む。

稚魚の体長は小さいものでも３０ｃｍはある
備考：胸ビレは刃物並みに鋭利で、掠めただけで人体を易々切り裂ける。
後付：本編登場予定

名前：パンツァー・フィッシュ　別名「樹海雷魚」
分類：スズキ目タイワンドジョウ科
祖先：ライギョ
全長：１０ｍ
食性：肉食
住処：主に陸地のジャングル地帯に生息
容姿詳細：腹ビレや尻ビレが足のように発達している。ウロコも硬く、鋭い牙で獲物を引き裂きなんでもよく食べるため、３年ほどでとても巨大になる。それ以外は現在のライギョとあまり変わらない。
総合詳細：上記に述べたようにヒレを使って陸地でも高速で移動する（時速５０ｋｍ）水陸を問わず移動できるが、陸地での生活が主となっているので実は泳ぎは上手くない
生態：年に２度交尾をし、雌が６０個ほど卵を産む。稚魚であっても体長は２ｍを超し、とても獰猛
備考：陸地の生命体の全てが捕食対象であり、陸地だけで限定すれば地上最強の生物の１種
後付：本編２話登場・再登場予定

名前：ホールゲッコー　別名「暗黒白影」
分類：有鱗目　ヤモリ科
祖先：ヤモリ
全長：４～８ｍ
食性：肉食
住処：北海道大湿原洞窟内部・主要都市地下下水道内部
容姿詳細：全身が白く鱗が無い。ヤツメウナギの様な頭部を持つ首

は身体の2倍以上の長さまで伸びる。
尾の先端には吸盤を備えており、これにより天井に張り付く。目は完全に退化し、それ以外の感覚と、電力を用いての外敵や獲物の探知を行う。
簡単に言うと某名作狩りゲームで雪山と沼地に出現する不気味な敵の翼を取り除いたような感じ。（作品名が出せないのが非常に残念だ）
総合詳細：筋肉を発達させた事により発電能力を修得し、食道を変化させた袋状の器官にそれを蓄積させ、球体状にして吐き出すという技を持つ。
井上はこの発電能力を武器に応用し、電流の流れる武器を作る事に成功した。
生態：尾の先端に備えられた吸盤とヤモリ特有の足裏を用いて、洞窟や地下下水道内部の天井に張り付いて獲物を待つ。
自分の真下に獲物が来た事を察知すると、瞬時に首をその獲物の真下へと伸ばし、一気に喰らい付く。
大形の獲物や外敵を相手にする場合、高圧電流を流したり球体電撃発射を用いて攻撃する。
雌は身篭ると、数個の卵をそこら辺に放置して立ち去る。
産まれて来た幼体は四肢が無く、全長４ｍ以上の大型脊椎動物にへばり付く。
そして肛門から瞬時に胃の内部へと侵入し、その中で寄生生活を送る。
四肢が形成された状態になると、また対象生物の肛門から這い出て単独生活を送る。
備考：寄生生活中における成長過程の撮影成功例は皆無。
後付：本編登場予定

名前：パンデミック・シェル　別名「黒死病貝」
分類：古腹足目サザエ科

祖先：サザエ
全長：２０ｃｍ
食性：肉食
住処：沿岸部
容姿詳細：巨大な貝殻に覆われた巻貝で、巨大と言うこと以外は現代のサザエとあまり変わらない。
総合詳細：貝殻は強力で致死性の高い毒針で構成されており（遠目で見ると分からないが、間近で見ると貝殻は小さな針で構成されている。）貝殻を踏むだけで足下から毒が体内に侵入し、２０分で生物の全器官を麻痺させ死亡させる。貝殻は脆いが欠片を飛び散らせると毒が蔓延するためパンデミック（感染爆発）の異名を持つ。また、パンデミック・シェル自身も強烈な毒を持つ。
生態：交尾は年に一度で、一度に１００個の卵を産む。
備考：貝殻が破壊されると、パンデミック・シェルは自身の体内の毒を岩石などに注入し再び精製するため、２～３日で完成する。無論その期間は無防備である。
後付：本編登場予定

名前：シロメアリ　別名「白眼郡虫」
分類：ハチ目アリ科
祖先：アリ
全長：４ｃｍ（女王アリは１０ｃｍ）
食性：雑食
住処：動物の死骸か木の中
容姿詳細：触覚が長いのが特徴。目は退化のために白く、体色は赤。
総合詳細：環境変化による触覚、聴覚、嗅覚の発達。視覚は退化。体皮は固く、牙は木や骨をも削る。
生態：群れで大型の動物を襲い、牙の毒で麻痺させる。その後、獲物の体内に侵入して寄生。体内（内臓等）に巣を作り、繁殖。卵
一　幼虫　一　蛹　一　成虫というアリの変態は環境変化により卵

から産まれるのは成虫である。ある程度の数がそろったら腹を食い破り、新たな巣を探す。探している間は食い破った巣は餌と新たな巣を見つけるまでの仮の巣となる。
備考：寄生された動物は生きている。その動物が摂取した食べ物を餌とする。なお、卵内で幼虫、蛹となる。
後付：本編登場予定

名前：スカーレット・ロブスター　別名「森林海老」
分類：甲殻綱十脚目
祖先：ザリガニ
全長：１５ｃｍ（脚除く）
食性：雑食性
住処：森林・ゴミ捨て場
容姿詳細：祖先とは全く似ても似つかぬ丸い体に長い脚を４本持つ。腹部は退化しており、細い尻尾のようになっている。
甲羅の色は全体的に赤と黒で、腹部は黄緑色。
総合詳細：前足は以前の鋏で、先端に小さくその名残が残るだけとなっている。
後ろ足も以前の脚で、それ以外の無数の脚は、既に退化している。
現在での鋏は、餌を摘み上げるピンセットの役割である。
生態：森林やゴミ捨て場に多く発生する、ザリガニを祖先とする節足動物。
生き物の死骸や腐った植物、木の葉などを主な餌とするため、密林の掃除屋とも呼ばれたりする。
備考：年に６回の交尾で、淡水中に４０個の卵を産む。
幼生は生後３週間で陸上での生活を開始する。
後付：本編登場予定

名前：モスキートキングス　別名「大王薮蚊」
分類：双翅目・糸角亜目・カ科

祖先：薮蚊
全長：５０ｃｍ
食性：吸血
住処：湿った場所なら何処にでも生息。
容姿詳細：巨大な蚊そのもの。
総合詳細：生命力と知能が高い。
集団で高速飛行する。
雌しか存在しない。
生態：年中無休で産卵。
備考：犬並みの知性。
後付：本編登場予定。

名前：ミョーオー・ローチ　別名「明王ゴキブリ」
分類：ゴキブリ科
祖先：クロゴキブリ
全長：３．５ｍ
食性：雑食
住処：砂漠を除くあらゆる陸地
容姿詳細：普通の巨大ゴキブリだが、前足は蟷螂、尻先は鋏虫になっている。
何故このような容姿になってしまったのかという理由は、作品の結末や核心部と大きな関係がある。
ちなみに雌より雄の方が大型。
総合詳細：１話でいきなり雨霧、血徒、死恋の３匹を追っていた事で有名な明王ゴキブリだが、彼らの走行速度は軽乗用車と互角。
飛行速度も小型飛行機と同等なわけだから、火事場のＣＢは凄まじい力を発揮できることが分かる。
彼らの基本的思考回路は、追跡・捕食・逃亡・生殖のみで構成される。
つまり非常に偏差値の低い生物というわけだ。

生態：年中繁殖期で、雄は雌を見付けると急いで襲いかかり、強制的に交尾を執行する。
雌の体内で卵が受精されると、雄は雌に早く産卵するようにと脅迫する。
産卵後雄は雌を食い殺し、受精卵を放置して別の雌との交尾を求めてその場から立ち去る。
受精卵は産卵後僅か３０時間で孵化し、孵化直後から集団で捕食行為を開始する。
備考：名前の由来は、前足を刀に例えた発見者の日本人が仏教徒だった事からついたらしい。
後付：本編１話登場。
再登場予定。

名前：スクワーム　別名「鎧青虫」
分類：幼形蝶蛾類　トランスワーム科
祖先：蝶の幼虫
全長：５０ｃｍ～２ｍ
食性：肉食
住処：樹上、地上
容姿詳細：若草色の鎧の様な甲殻を持ち、口には鋭い牙が無数に存在。
更に、複眼も怪しげな色彩と模様を持ち、不気味な事極まりない。
総合詳細：蝶や蛾の幼虫が幼形成熟（ネオテニー）した生物。
愚鈍で貧弱であるという芋虫のイメージを覆す存在で、非常に獰猛で凶暴。
且つ俊敏に移動し、時としてパンツァー・フィッシュの幼魚も襲う。
小型個体は死肉が主食。
生態：広葉樹の樹上に生息し、普段は自分より小さな昆虫や哺乳類などを食べて生活。
主な住処である大木の下を獲物となる動物やＣＢが通り過ぎようと

する瞬間を見計らって落下、口から嘗て自身を保護する為に用いていた粘着性物質「蟲糊」の塊を吐き出し、対象を拘束。
こうして先ず、対象の「移動」を封じる。
その後、更に蟲糊を吐き「攻撃」又は「呼吸」を封じる。
こうして獲物にまだ命がある内にその強靱な顎で骨まで食べてしまうのである。
（但し、ＣＢの骨格組織は金属なので食べられない）
産卵期は不特定である。
備考：余談だが、この「幼形成熟（ネオテニー）」は、自然界において存在する。
メキシコに生息する「メキシコサラマンダー（別名：アホロートル、ウーパールーパー」はその一生を水中で、真っ白なオタマジャクシ状態で過ごすのである。
（飼育下においては、水温変化などで変態してしまう事もあるらしいが。）
ちなみに「芋虫は草食じゃねぇの？」等と庶民的な事を仰る方へ。
現在生息する蝶蛾系昆虫の幼虫の内０．８％は肉食なのでご注意を。
後付：本編４話登場。
本編再登場予定。

名前：サンドスイマー　別名「砂潜」
分類：砂中陸魚類
祖先：コチ
全長：４ｍ～１０ｍ
食性：肉食
住処：砂漠地帯
容姿詳細：全体的に平たい体型で、祖先である魚類の名残である鰭を残している。
腹鰭が後ろ足の様に変化。
種目鮫のような頭部の形状だが、目の位置は変わらず。
簡単に言うなら、某名作狩りゲームにおける砂漠の敵のような感じ

である。（作品名が出せないのが非常に残念だ）
総合詳細：嘗ては広大な熱帯多雨林であった筈のブラジルはアマゾン砂漠地帯に生息する陸棲魚類。
水圏の生物の一部が、調子に乗って巨大化した捕食者から逃れる目的で陸上に上がるというのは良くあった話で（樹海雷魚（パンツァー・フィッシュ）等）日本近海に生息していたコチの仲間もそれらを実践した種の１つであった。
砂潜（サンドスイマー）は元々、砂地に隠れ潜む事を得意とした体型をしていたため、それを利用して完全なる陸上適応を目指したのだ。
まず、樹海雷魚（パンツァー・フィッシュ）の様に腹鰭を脚型に変化させ、鰓を捨て、浮き袋を肺に変化させた。
魚と言う奴は元々爬虫類と同じく硬質の鱗を持っていた為、乾燥地に適応するのも今回は容易だったようだ。
水中ではなく、砂中を泳ぐ様に鰭を変化させ、口の位置も微妙に変わった。
視覚は光と物体の主な位置を確認する程度となり、聴覚・嗅覚・触覚を変化させたのである。
生態：普段は砂地の奥深くを泳ぎ回っているが、獲物が立てる震動や音、臭気を察知し、獲物の体長・体高・体重・種類・健康状態・頭部の向いている方位を識別する。
自分が喰うのに最適と判断した獲物が近づくと、それの元へと音も震動も全く立てずに接近する。
獲物の直ぐ近くまで接近し、獰猛に襲い掛かる。
獲物が自分の一口より大きい場合、噛み付く位置は大抵首や腹等で、一撃必殺を狙う。
一撃必殺が不可能な獲物は、狙わないか、一口ずつ食い千切っていく。
備考：乾燥、飢餓、酸素不足にはかなり強いが、泳ぎは下手。
後付：本編登場予定。

名前：キラー・ゴビー　別名「浜辺登」

分類：両生魚類
祖先：ハゼ
全長：６ｍ～１０ｍ
食性：肉食
住処：北半球海洋沿岸部（浜辺等）
容姿詳細：腹鰭が脚のように、胸鰭は翼の様に変化。
背鰭が大きく、帆船の帆を思わせる。
簡単に言うなら、某名作狩りゲームにおける湖の敵のような感じである。（作品名が出せないのが非常に残念だ）
総合詳細：鮫と共に捕食者の座に君臨する大型魚類。
浜辺登（キラー・ゴビー）もまた、上陸する為の脚を持つが陸棲魚類とは違い水棲である。
この種は一時的な上陸の為に鰭を脚に変化させたのだ。
その上陸とは、言うまでもなく捕食である。
簡単に言うと「鰓呼吸を持っていたいが、上陸はしたかった」という考えの成れの果てと言うことになる。
無論浜辺登（こいつ等）は鰓呼吸を捨てず、肺の代わりに皮膚呼吸を行う事とした。
そして住処である沿岸部に手頃な動物が近づくと、上陸して喰い殺すのだ。
生態：普段は海中を泳ぎ回り適当に生態系維持に貢献し続けるが、その特異性が現れるのは繁殖期である。
繁殖期の番となった雌雄は、産卵後どちらかが卵を口の中で保護するのである。
つまり言うとシクリッドやプテラポゴン、ティラピアに見られる「口内育児（マウスブリード）」である。
ちなみにもう一方は稚魚を解放した際に稚魚の警護に当たったり、妻（又は夫）の護衛をしたりする。
ところで、この時期になると浜辺登によるＣＢ死亡事故が多発する。
更に、浜辺登の成魚は普段ＣＢを襲わない。

何故かお解りだろうか？
理由は簡単である。
ＣＢの骨格は金属であり、浜辺登の体内で金属を消化することは出来ない。
更に細長い金属などを食べてしまうと臓器が裂けて即死する。
だから普段浜辺登の成魚はＣＢを襲わないのである。（逆に独立した幼魚の集団はよく襲うので繁殖期以外が安全という訳でもない）
浜辺登の親達は、どうしても子を養わねばならない。
しかし、親が子から目を離すことなど有ってはならないし、繁殖期には頭の良い動物は「この時期の海は危ない」と理解しており、余程の理由が無い限り浜辺に近付くことはない。
何より頭の悪い動物が近寄ることもあるが、大抵は幼体や老体等であり、栄養源としては頼りない。
だがＣＢは、時期など関係なく釣りだ海水浴だ漁だで頻繁に海に近付いていく。
浜辺登はその事を良く知っている為、繁殖期に子の飯としてＣＢを襲うのである。
ちなみにこの事を多くのＣＢ達は知らず、多くの学者や我らが死恋ことシレン・ラセルティナが幾度訴えようと、世間は完全シカトである。
備考：育児担当か、警護担当かは、自然に決まる。
後付：本編登場予定。

名前：ネオセイズモス　別名「巨躯亀」
分類：爬虫類カメ目新生竜脚形類
祖先：リクガメ
全長：３０～６２ｍ
食性：植物食
住処：樹海・草原
容姿詳細：首と尾が細長く、脚も直立で太長い。

簡単に言うと甲羅を持った大型竜脚形類。
総合詳細：何処の世界にも、化け物のように巨大な動物がいる。
ゾウ、サイ、竜脚形類、ジンベエザメ、クマ、リードシクティス…
そういった者達は、大抵極小の動物を食べていたり、草食だったり、
雑食だったりする。
巨躯亀（ネオセイズモス）もまたそういった部類の生物の１つであり、２６世紀の地上
における最大の脊椎動物である。
彼らの性質は非常に温厚で、普段は背の高い樹木の枝や幹を食べて
生活するが、時より海草にも手を付ける。
狭くなった地上において彼らは家族以外単独で生活し、現時点でそ
の総数は成体に限定すると約九千程しか居ない。
生態：平均寿命約三百年。産卵は二年に一度で、約７か月の間に最
初は全長５０ｃｍ程の子供が３ｍにもなる。
この期間に鎧青虫や樹海雷魚に喰われてしまう確率が非常に高いた
め、総数九千などとなるのである。
備考：一日の消費エネルギーは２１世紀の欧米人と互角。
後付：本編登場予定。

名前：ネオレックス　別名「巨躯大牙」
分類：爬虫類有鱗目新生獣脚類
祖先：インドシナウォータードラゴン
全長：１０ｍ~２１ｍ
食性：肉食
住処：アマゾン砂漠地帯・アラスカ熱帯雨林
容姿詳細：簡単に言うなら、某名作狩りゲームにおける飛行肉食動
物最強の存在が腕の翼を失ったような容姿である。（作品名が出せ
ないのが非常に残念だ）
四肢が発達し、凄まじい速度で走行する。
総合詳細：あらゆる陸生動物の中で食物連鎖の頂点に君臨する生物
の１つで、調査市場総数や一年間で増える個体数は少ないが、

かの樹海雷魚（パンツァー・フィッシ）を物ともせずに食い殺し、ネオアラモスも襲う凶暴性と戦闘能力を持つ。
井上曰く「熟練の軍用ＣＢでも中々倒せない強敵」である。
ちなみに卵胎生。
生態：性質は凶暴極まりなく、大抵の陸生動物より強いが海辺であっさりと竜神海老（ドラゴンシュリンプ）や海洋刃牙（ネオティロス）に食われてしまう空しさあり。
繁殖期は毎年４月、雌は通常より脂肪を多くつけ、２年半の妊娠期間殆ど休まず狩りを続ける。
生まれる子供は２頭だが、その全長は既に５ｍにまでなっており、十分生き残れる。
備考：その鱗や骨は武器改造の素材としてかなり上質。
後付：本編登場予定。

名前：モスピッグ　別名「苔豚」
分類：植物自生哺乳類　ブタ目
祖先：肉豚
全長：１ｍ
食性：草食
住処：樹海・草原
容姿詳細：普通の豚だが、背中に苔が生えており、尾がアンテナの如く立っている。
簡単に言うなら、某名作狩りゲームにおける、素材を使った装備のダサい豚っぽい敵のような感じである。（作品名が出せないのが非常に残念だ）
総合詳細：まぁ所謂、「産まれ、飲み、食い、太り、孕み、産み、育て、食われる」という由緒正しき家畜の進化した動物だと言っていい。
樹海や草原の生態系は苔豚無しには考えられず、苔豚こそ今世紀の地上における最重要の種であると言えよう。
生態：背の低い草花や木の実を無差別に食い肥え太る。

この際出た物体もまた肥料となると共に樹海中に種を広げる役割を果たす。
年に何回も子を産み育てる。貝の如く両性具有なので交尾に困る事もない。
備考：雌狐飯店の人気肉料理は大抵苔豚メイン。
後付：本編登場予定

名前：ケルピー　別名「海馬」
分類：水棲哺乳類　奇蹄目
祖先：競走馬
全長：１．３ｍ
食性：草食
住処：海洋
容姿詳細：全身透き通る様なエメラルドグリーンで、鬣があった箇所は海牛の様になり、背鰭、尾鰭が発達。
四肢の膝から先は首長竜の鰭の如く変化し、舌は食蟻獣の様に長く伸びる。
総合詳細：苔豚が樹海や草原の生態系を支えているのならば、海馬は海洋の生態系を支えている。
比較的温厚な性質で、何時も海辺の野草や海草、藻等を食い育つ。
巨大化した魚類の格好の餌食である。
生態：海辺の野草、海草、藻等を食い育ち、普段から群れて行動する。
その生活は既に絶滅した海驢に近く、武装も全く備えていない。
只特筆すべきは、その団結力と子への愛情、そして並はずれた瞬発力と持久力である。
備考：雌狐飯店の人気肉料理第２位は大抵海馬メイン。
後付：本編登場予定

名前：ワンデイズフライ　別名「一日蠅」

分類：炎熱昆虫　ハエ科
祖先：イエバエ
全長：３ｃｍ
食性：絶食（口吻変化）
住処：高温多湿エリア
容姿詳細：ほぼ普通のハエ
総合詳細：寿命が１日しかなく、成虫期はほぼ移動のみが仕事である。
が、この昆虫は驚くべき武装を兼ね備えている。
それは、体内に特定の化学物質を持ち、これを融合させて炎に変換し、元々口であった部分から噴射するというものである。
これにより大抵の動物は怯んでしまうし、何よりこの武装システムを開発した種はこれを除いて両手で数えるほどしか居ない。
生態：体内で卵を孵し、幼虫である成人蛆（アダルトワーム）を餌床へと導くことこそがこの蟲の使命。
体内に貯えられた脂肪分を燃焼させ、いち早く同種に全く手を付けられていない腐肉や腐った植物を探し出し、其処に成人蛆を放つ。
その直後、この哀れな蟲は息絶える。
備考：「自然界とは使い捨ての連続である」
後付：本編４話登場。
本編再登場予定。

名前：アダルトワーム　別名「成人蛆」
分類：幼形蠅蚊　グロウワーム科
祖先：イエバエ
全長：不定
食性：雑食
住処：自然界で腐った生物の中
容姿詳細：只の蛆
総合詳細：只の蛆だからといって馬鹿にする事なかれ。

この蛆虫、なんと雌雄と生殖能力を持っているのである。
生態：餌床に辿り着いた成人蛆達は先ず、餌を喰らいながら子を産み増やしていく。
そうして餌が完全になくなったら、５～１３匹の最も強い成人蛆達が、他の弱い個体を食い尽くし、蛹になる。
成虫である一日蠅となった個体は、直ぐさま次の餌床を探して飛び立つ。
備考：この虫の一生の内、この時期が最も食われやすい。
後付：本編登場予定。

名前：ベルゼブブ　別名「帝王」
分類：大罪生物　ワンデイズフライ科
祖先：イエバエ
全長：２ｍ
食性：雑食
住処：不明（死骸しか見付かっていない）
容姿詳細：巨大な蠅だが、その羽根は２対あり、腹端には毒針を持つ。
総合詳細：研究の結果、この巨大なＵＭＡは一日蠅を統治する生物であるという事が分かった。
発生条件は不明だが、稀に両生で、高度な知能・長い寿命・栄養摂取能力・生殖能力を持った１日蠅達が産まれる。
彼らは巣を作り、そこで１匹の特別な成人蛆を育成する。それも、特殊な餌と環境で厳重に管理されながら。
この成人蛆こそが帝王蠅の幼虫形態である。
３年の月日を経て帝王蠅が羽化すると、それまで育児を担当してきた１日蠅達が一変「産む機械」と化す。
生態：蠅達は帝王蠅の精子を受け継ぎ、１日最大１０００もの卵を産む。
これらから産まれた１日蠅は、餌床を探すと共に、巣の護衛も担当

する。
これらの指揮は全て帝王蠅が自身の身体から発せられる異臭により行われる。
こうした「蠅の政治」を一定期間繰り返すと、死期の近付いた帝王蠅は遂に巣の外へと飛び立ち、腹端の毒針で殺戮を繰り返した後、死ぬ。
備考：未だに謎の多い生物である。
後付：本編登場予定。

一度ＣＭ

雨「はい。
それでは次の質問。

ラジオネーム、フライト４さんからの御葉書。

『飯店の皆さんは、何か楽器演奏は出来ますか？』

という事なんですが…

一応僕はベースが出来ます。
地上に居た頃から大好きな『ボール・ライトニング』の影響でチョッパーが特に得意ですね。

猫さんは？」

血「俺はドラムだな。「性別無視してるだろ」とか言われるほど力

任せに全身使ってぶっ叩いてる」

死「俺の場合はギター。
あと作詞作曲も結構やってたな。事務所の連中と一緒にバンド組んでたっけ」

雨「意外ー。

というわけで続いての質問、ラジオネーム山田五郎さんからの御葉書。
『飯店の皆さんは何人子供が欲しいですか？』」

三匹「…」

雨「はい、それでは番組終了のお時間となりましたので、本日はこれにてさようなら～」
死「次回のゲストはなんとなんと、」

血「作者の最初のオリジナルキャラクターメシス・バンドレッド氏だ！
リスナー共、克目して次回を待っとけ！」

FIN

5話・急襲

「大変な事態」というのは、世の中どこにでも転がっているものである。

サーバーメンテナンス
料理の失敗
交通事故
悲しいニュース

無論その中には「害虫進入」というものも含まれるだろう。
ハエやゴキブリ、時として鼠や蛇が入ってくることさえある。
無論２６世紀でもそんなことはよくある。
しかし、問題なのはそのレヴェルが違うと言うことだろう。

―樹海雷魚襲来（パンツァー・フィッシュ）から３週間後　マンション７０３号室　６：３０
死恋―

「…朝か…ってディノエンペラーズまでまだ３０分あるなぁ。
つっても寝過ごすの怖いからなぁ…起きとくか」
と、ベッドから立ち上がり身支度をしようとしたとき、窓辺に何かの気配を感じる。

「何だ…？

！！！」

死恋は一瞬現実を疑った。
ベランダにはこの世のものとは思えぬ全長４ｍの巨大魚が突き刺さっていたのだ。
一般人なら悲鳴を上げるところだろうが流石死恋、硬直で済ませている。

想像出来るだろうか？
体中銀色のとても硬い鱗に覆われており、翼のような胸鰭を持つ全長４ｍの飛魚。
それが窓に突き刺さっているのである。

「…砲弾怪魚（フライング・マナス）か…食ったら美味いんだが、此処からどう運ぶかなんだよなぁ…。
ついでに皮の処理とかめんどいし」

と、さっさと身支度をすませてＴＶの電源を入れようとした瞬間。

《Ｖメールが届いたよぅ》

携帯電話からそんな着信音がした。
音声を録音して相手に送信できる、「Ｖメール」だ。
差出人は「コジ先輩」

死恋はこの名前に覚えがあった。天空大陸に住んでいた頃とても仲の良かった虎型ＣＢで、死恋の職場の先輩だった。
死恋より前に正義感から法を犯して地上に落とされた。
死恋はＴＶの電源を入れると、懐かしい声が響いて来る。
その内容とは、こうだった。

件名：死恋！元気か？
死恋、お前が地上に自分から降りたとつい最近聞いて最初は驚いた。
何でわざわざこんな危険な場所に自分から入ってきたんだ？
まぁ、そんな事は良しとしよう。お前は天空大陸時代から独創性の強い奴だったからな。

さて、本題に入るが俺は地上に降りて直ぐに武器の店を開店した。
その名も「井上武装」だ。
金属の他に、魚の鱗や鳥の羽を使って様々な武器を生産したり改造できる。
樹海雷魚（パンツァー・フィッシュ）を倒したと聞いたときピンと来た。
集められる限りいろんな動物の皮や骨をかき集めて、それを暇な時で良いから持ってきてくれ。

その後アニメ１本、特撮２本を見終えて朝食を済ませた彼は急いで飯店へ向かった。

―雌狐飯店―

「…というわけで、暇な時に先輩に挨拶に行きたいんだが」

すると他のメンバーは、

「いや、竜さん居ないと店の周りの見張り体制が疎かになりますし」
と、雨霧。
「確かに死恋の担当は俺達と違って毎日必然的に居なきゃいかんなんつー事はねーけどさ」
と、血徒。
「他に代役雇うにしてもねぇ…死恋くらい強いココの辺に居ないから…」
と、三日月。

「ッフー…やっぱ駄目か。
んじゃ俺、仕事行って来るわ。店長、今日の昼飯は久々にナポリタンが良いですね」
「そう、作っとくわね」

―

何時も通りの展開の筈だった。
しかし、そいつは急にやって来た。
…Zゥゥゥゥゥン…
…Zゥゥゥゥゥゥゥゥン…
鈍い音と地響きが周囲の大気を振動させる。
嘗ての地球、現在と似た環境の中生代・ジュラ紀にて。

現在では樹海と化した北アメリカに居た、最大の恐竜にして陸棲脊椎動物。

植物食爬虫類・地を揺らす蜥蜴（セイズモサウルス）

それに似た、２６世紀の地球における最大の陸棲動物、巨躯亀（ネオセイズモス）。

それの一家が、飯店に接近しつつ有った。

そして、それを追うのものも１つ。

―

地響きに最初に気付いたのは、店の常連である雄牛と雄熊のコンビであった。

「おい青鬼よ、何か地響きがしないか？」

全身真紅の雄牛・赤鬼は、相棒に聞いた。

「奇遇だな赤鬼よ、俺もその地響きとやらを感じていた所だ」

青い毛の雄熊・青鬼は答える。

「そうか。

それはそうと青鬼よ、出来れば俺の勘違いであって欲しいのだが、地響きが三日月殿の店に向かっているようには感じないか？」

「奇遇だな赤鬼よ、俺もそう思っていたところだ」

「そうか、青鬼よ」

暫しの沈黙

…

…

「そういえば青鬼よ、以前俺達が遭遇した、亀のような大きな生き物は名を何と云った？」

「忘れたのか赤鬼よ？巨躯陸亀…片仮名でネオセイズモスと云う筈だぞ」

「そうか青鬼」

「しっかりしてくれ赤鬼。

ところで、あの亀がどうかしたのか？」

「そうだな。俺は今、あの地響きの方角から、ある一つの最悪の出来事が起こってしまうのではないのかと心配しているのだが」

「奇遇だな、赤鬼よ。俺も今、そういった心配をしていたところだ」

二頭の心配事。内容は全く同じだった。

予想出来た読者が殆どだろうが、即ちこうである。

複数の巨躯陸亀（ネオセイズモス）が雌狐飯店へと向かっている。

「阻止するぞ、赤鬼よ」
「報告が先だろう、青鬼よ」

二頭は走り出した。
しかし、この事件の真相とはこの2頭でさえ考えていなかった程恐ろしい事態だった。

―雌狐飯店屋上部・死恋―
地響きは既に飯店に近づいていた。
それは居眠りしていた死恋を起す程のもので、彼はようやく異常事態に気がついた。
「…ん？

何だこの地響きは……まさか、

ッ…ネオ・セイズモス…。

何で…何で此処にぃっ……ま、まさか！」
死恋は店内へと怒鳴った。

「逃げろ！
地上最強肉食爬虫類（アノヤロー）が来やがった！
デカイ亀で踏み潰されんのから逃れられても、奴に食われて確実に

死ぬ！

店長、雨霧、血徒！
早く逃げてくれ！」

店の中は静まり返った。
どんなに凶悪な生物が着ても動じず、冷静に対処していたあの死恋がここまで必死になっているのだ。
ミカヅキ達はおろか、客達でさえ判っていた。
数々ある死恋の面白い過去話の内、彼が陸であった事を話す時に唯一真顔かつ真剣に話していた生物と言えば、アレしか思いつかなかったからだ。

巨躯大牙
またの名をネオレックス

其れは、地上に確認されている内、最も恐ろしいとされる生き物。

ある者はそれを最強の破壊兵器と例え、
ある者はそれを攻撃性に骨と肉と鱗を与えたものと言い、
ある者はそれを自然界の力による恐怖の内最も恐ろしい存在と呼ぶ。

陸上最強の肉食動物。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3818c/

580年

2010年10月29日13時46分発行